

本戦緊急レポート

第21回 麻雀最強戦

関西の雄、板川和俊走り抜ける!!

全国から熾烈な予選を勝ち登って来た80名が麻雀界の頂点を目指し最後の戦いに挑んだ。そこには「プロ予選」を勝ち進んできた麻雀プロ13名もいる。しかし卓に着けばプロもアマチュアもない。皆が同じ条件で鎧を削る。2010年度の栄光は誰の手に!?

文◎森橋ビンゴ
撮影◎寺内康彦

板川和俊（44）は、少年の頃から、走るのが好きだったという。

中学生になると、すぐに陸上部に入つた。ただ走る事が好きなだけでは

なく、走る才にも恵まれていた。有名な高校からスカウトが来る程だったというから、相当なものだろう。そのまま高校に上がつても陸上を続け、インターハイに出場。大学に進学しても、やはり陸上部に所属した。

しかし大学に入つて間もなく、彼はアキレス腱を断絶——陸上競技を辞める事を余儀なくされてしまう。「それが、人生最初の挫折かもしま

中学時代から走る事を続けていた板川にとつて、それはある種の死亡宣告だつたと言つて良い。しかし、もう走れないのだという事実に腐りかけていた板川を救つたのが麻雀だつた。陸上部の先輩に誘われて訪れたフリー雀荘

で、彼は久しぶりに麻雀に興じ、その面白さにのめり込んでいった。麻雀を憶えたのは中学生の頃。しかしその時にはさして夢中にはならなかつたとい

う。彼には「走る」という、他に夢になれる事があつたのだ。その「走る」事を失つた穴に、麻雀はすっぽりと埋まつた。欠けたピースが嵌り込むように、何の違和感もなく、麻雀は彼の中でかけがえのない物になつた。

第21回麻雀最強戦では、プロ予選を勝ち上がり、本戦への出場を決めた。しかしその1回戦、板川は親番で大三元をツモられるというスタートを切つてしまふ。普通ならば、絶望を感じてもおかしくはない。或いはカツとなり、打牌が荒れてしまう事もあるだろう。しかし板川は、

「あれで気持ちが楽になりましたね」

優勝○板川和俊

